世界は思っている以上に狭すぎる

マセリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
世界は思っている以上に狭すぎる

【Ｎコード】
Ｎ１６５２Ｑ

【作者名】
マセリ

【あらすじ】
高校二年の始業式の日、主人公西澤彰とクラスメイト全員があることをきっかけに異世界へと飛ばされることになる。

グロ表現が多少あります。
注意してください

日常

9月、1日。
学生ならだるいであろうこの日がついにやってきた。
始業式だ。
友達に会えるのはいいが、宿題を全くやってない僕にとっては地獄の日だ。すくなくとも僕、西澤　彰にとっちゃあ地獄、だ。
しかも、暑い。
夏っていうのはとにかく苦手だ。耐えようにも耐えられない、地獄。
もう9月だぞ？太陽は休んでいてくれ。

「あ〝ー…地獄しかないのかこの世には…」
「随分とだれてるのね、西澤くん暑いの苦手？」
「あ…、谷野…さん」
涼しげな顔で話し掛けてきたのは学級委員の谷野　百合子だ。
美形で頭がよく、気が利く。絵にかいたような優等生。

「暑く…ないんですか？」
「西澤くんが暑がりなのよ。まだ朝だし、耐えられない暑さじゃないわ。
そう笑いかけられると、すこしだけ暑さが和らいだ気がする。どんな地獄でも救いはあるみたいだ。
「おー、朝からイチャイチャすんなよー、熱いぜ…」
「イチャイチャなんかしてないですよ…」
ニヤニヤしながら近づいてきたのはクラスのムードメーカー、神田　正太だ。

「ってかその堅苦しい敬語直せよ、クラスメイトだろー？」
「癖なんですよ」
「直す努力をだな…」
「神田くん、そこら辺でやめときな、先生来るよ。」

時計の針は、８時２９分を指していた。

本当の地獄が始まるまで、あと１０分だった。

日常（後書き）

これに出てくる人物の名前は元クラスメイトの名前のもじりなんです。
私も実は出てます、まだでてませんがね（笑）
楽しんでいただけたら嬉しいです

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1652q/

世界は思っている以上に狭すぎる

2011年1月19日04時27分発行